

**第 28 回能美市地域公共交通会議  
議事録**

日時：平成 30 年 12 月 13 日（木） 10：00～11：20

場所：能美市役所本庁舎 1 階 大会議室

参加者：

|               | 所 属                             | 氏 名       | 備 考 |
|---------------|---------------------------------|-----------|-----|
| 学識経験者         | 金沢大学理工研究域地域社会基盤学系・系長            | 高 山 純 一   | 会長  |
| 議会            | 総務常任委員会委員長                      | 田 中 大 佐 久 |     |
| 市民又は<br>利用者代表 | 辰口地区町会長会 会長                     | 山 本 徹     |     |
|               | 寺井地区町会長会 会長                     | 東 方 俊 一 郎 |     |
|               | 根上地区町内会長会 会長                    | 吉 田 良     |     |
|               | 北陸先端科学技術大学院大学 総務課長              | 柴 田 裕 司   |     |
|               | 石川県立寺井高等学校 教諭                   | 森 田 久 俊   | 欠席  |
|               | 能美市老人クラブ連合会 会長                  | 田 中 悠 紀 夫 |     |
|               | 能美市婦人団体協議会 顧問                   | 田 中 玉 美   | 欠席  |
| 事業者           | 能美市 P T A 連合会 副会長               | 山 岸 千 恵   |     |
|               | 小松バス（株） 専務取締役                   | 山 口 紳 也   | 代理  |
|               | 加賀白山バス（株） 取締役社長                 | 茜 栄 成     |     |
| 行政            | 大和自動車交通（株） 営業所所長                | 酒 井 敬 治   | 欠席  |
|               | 国土交通省北陸信越運輸局石川運輸支局<br>主席運輸企画専門官 | 木 村 幸 典   | 欠席  |
|               | 石川県企画振興部新幹線・交通対策監室<br>交通政策課 主幹  | 的 場 大 篤   | 代理  |
|               | 石川県南加賀土木総合事務所 維持管理課長            | 本 多 巖     |     |
|               | 寺井警察署 交通課長                      | 村 本 寛 之   |     |
|               | 能美市 副市長                         | 細 川 喜 孝   | 副会長 |
|               | 能美市 企画振興部長                      | 橋 場 和 彦   |     |
|               | 能美市 産業建設部次長兼土木課長                | 喜 多 邦 夫   |     |
| 事務局           | 能美市 健康福祉部福祉課長                   | 川 本 素 子   |     |
|               | 能美市 企画振興部地域振興課長                 | 中 出 真 弓   |     |
|               | 能美市 企画振興部地域振興課主任                | 長 田 史 彦   |     |
|               | （株）計画情報研究所 取締役                  | 四 藤 一 成   |     |
|               | （株）計画情報研究所 研究員                  | 千 徳 信 好   |     |

## ■議事

### 1. 開会

#### 【司会（中出）】：

皆様おはようございます。定刻前ですが皆様おそろいなので、ただいまから第28回能美市地域公共交通会議を始めたいと思います。本日の司会を務めます、地域振興課の中出です。よろしくお願い致します。

会に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。資料はA4縦の「会議次第」、「委員名簿」、「能美市地域公共交通会議設置要綱」、「座席表」、横版になりますが、右上に資料番号が付いております「資料1」と書かれた資料、左上に「資料1 別紙資料」と書かれた資料、ホッチキス止めの冊子の「能美市のよりよい地域公共交通の実現に向けたアンケート調査結果報告書」、最後に「能美市公共交通ガイド」。以上、本日の資料を確認させて頂きましたが、不足等ありませんでしょうか。

それではお手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。最初に会議開催に先立ち、能美市細川副市長より一言挨拶を申し上げます。副市長よろしくお願い致します。

#### 【細川副市長】：

皆様おはようございます。本日はお忙しいところご参集いただきまして、ありがとうございます。毎回お話をさせて頂いていることではありますが、地域公共交通を取り巻く状況はなかなか厳しいものがございます。12月3日付の日本経済新聞だったと思うのですが、京都で路線バスの維持が難しくなっているとの記事がありました。それはなぜかと言うと、人手不足によって運転手が確保できず、路線の維持ができない状況であるとの記事でした。多分これはどこも同じだと思います。人手不足対策につきましては、市としましても今年度の当初予算の1丁目1番地という形で行っているのですが、なかなか人手が確保できないという問題があり、今の路線を維持できないという状況になっております。そういう状況もあって、路線バスというものは路線が決まっておりますので、もしかしたらそう遠くない未来において、自動運転というものも進んでいくような状況に来ているのではないかと感じております。

前回会議では、コミュニティバスの再編に向けてアンケートを行うということでご審議いただきまして、アンケートを実施いたしました。本日はその結果についてご報告をさせていただくとともに、それを踏まえて『のみバス』再編に向けて基本的な考え方というものをお示しし、次回会議では具体的な再編案をお示しすることになります。本日は深長審議をよろしくお願いしたいと思います。

#### 【司会（中出）】：

ありがとうございました。続きまして、当会議の会長であります金沢大学の高山純一教授よりご挨拶をお願い致します。

#### 【高山会長】：

今日は非常にいい天気です。今年の正月明けと2月には大変な大雪で、金沢も凄かったですけれども、福井方面の方がさらに凄かったようです。今年は何とかそういうことがないようにと思いつつも、今朝や昨日のニュースを見ておると、北海道や東北は大変な大雪で、暖冬だと思っていたのに一気に雪

が降ってきた。北陸もこのところはどちらかと言うと気温もそれほど低くはありませんし、暖冬なのではないかという期待はしているのですけれど、天気のことにはよく分からない、というのが最近の思いです。

さて、今お話がありましたように、地域の公共交通はどんどんサービスレベルは落ちているし、利用者数も伸びない、しかし最低限必要な方はおられる。地域の公共交通をどう維持していくかというのは非常に悩ましいことが多くなってきているのです。昔は交通弱者と呼ばれる方は本当にごく少数だったと思うのですが、最近は免許返納も随分進んできている。一方でお年寄りも元気だ。どうするか。本当であれば、免許返納すれば福祉有償輸送に移って頂くということになればそれほど問題はないのですけれども、そうはなかなかいかない。そこに非常に大きな地域のジレンマがあるのではないかと考えております。本日は、能美市民すべての方が便利になるというのは難しいのですが、できるだけ多くの方が不満を感じずに利用をできるような『のみバス』の再編の検討ができればと思っています。アンケート結果の報告もありますし、再編に向けての基本的な考え方についてお示ししますので、色々な立場からご意見頂戴できればと思います。どうかよろしくお願い致します。

**【事務局（中出）】：**

ありがとうございました。なお、小松バス株式会社の新谷委員様が欠席ということで、代理の取締役運行サービス部長の山口様に出席していただいております。それから、石川県企画振興部の交通政策課の今村委員様も議会对応のため欠席ということで、代理の的場様に出席して頂いております。それから、国土交通省北陸信越運輸局石川支局の木村委員様と大和自動車交通株式会社の酒井委員様、石川県立寺井高等学校の森田委員様、能美市婦人団体協議会顧問の田中委員様は所用のため欠席となっておりますので、皆様ご了解下さい。よろしくお願い致します。

先ほどのお話でありましたけれども、本日はのみバスの見直しについてアンケートや再編の業務コンサルタントを請け負っております、株式会社計画情報研究所の担当が同席しております。後ほど担当から市民アンケートの集計結果の報告をしていただく予定をしておりますので、ご了解下さい。

これ以降の議事進行については、当会議の設置要綱に基づき、高山会長にお願いします。

**【高山会長】：**

それではお配りした会議次第に沿って進めたいと思います。本日は協議事項1件が挙がっております。協議事項第49号、「平成30年度能美バスの再編に向けた市民アンケート調査結果とのみバス再編の骨格について」について、まず事務局より内容の説明をお願いしたいと思います。

—事務局より資料説明—

- ・資料1 平成30年度のみバスの再編に向けた市民アンケート調査結果とのみバス再編の骨格について
- ・資料1 別紙資料
- ・能美市のよりよい地域公共交通の実現に向けたアンケート調査結果報告書

**【高山会長】：**

今、事務局からアンケート調査結果の概要の説明と、それに基づく改善の基本的な考え方と骨格につ

いて説明いただきました。どこからでも結構ですので、ご意見があれば頂戴したいと思います。いかがでしょうか。感想でも結構ですし、分からないところをもう一度聞き直していただいても結構ですが、地元代表ということでも辰口地区町会長会会長の山本委員、何かございますか。

【山本委員】：

辰口地区は範囲が非常に広いので、なかなか網羅するという事は難しいと思うのです。私自身が住んでいるのは徳久町なのですが、そこからどうしようかと思ったときに、循環バスに乗ればグッと20分から30分乗せさせられて辰口福祉会館に行き、そこから連携バスでJRなりに向かうという形になる。一方、自宅から辰口福祉会館まで歩いていくとだいたい1km強なのです。そうであれば歩いて15分から20分で、その方が速い。ただ、私たちのような健常者にはそれも可能かもしれませんが、高齢者となるとどうなるかと思う。先生も長年能美市の公共交通に取り組んでおられますけれども、100%の満足度というのは難しいと思いますので、今こうした案が出されている中で改善して、より多くの満足を得られるようにするという形しかないのかなと思いました。以上です。

【高山会長】：

それでは寺井地区町会長会会長の東方委員、いかがでしょう。

【東方委員】：

資料1の6ページの「利用したい交通手段」について、利用したい交通手段が「わからない」と回答した方が6割弱おられたということですが、どんな方がそのように回答しておられるのか疑問に思いました。恐らく選択肢を提示して回答してもらうものだとは思いますが、「わからない」と応えた方がどういう属性の方なのでしょうか。

【高山会長】：

事務局、分かりますでしょうか。

【事務局（長田）】：

正確な数字は持ち合わせていないのですが、高校生世代の若い方にも聞いておりますので、比較的若い世代の方につきましては分からないという回答が多く、なかなかバス以外の移動手段についてイメージがわかかなかったものと思われまます。

【高山会長】：

他にいかがですか。

【吉田委員】：

根上は恵まれておまして、JRの駅もありますし、文化会館や病院もあり、私の母もよく利用しておりました。アンケートを見ていると、自家用車を自分で運転する人が多く、また70代でも80代でも元気な人は元気なので、高齢になったという理由で移動手段を変えてもらうというのは難しいのだろうと思います。多分、自分から免許を返納することはなかなかできないので、自分で動けなくなって初めて息子さんが免許を取り上げる、そのような人をどうしたらよいのかと思います。例えば車であれば5分

で行けるのに、バスだと 20 分も 30 分もかかるようになるので、これまで車を利用して来た人がバスを利用するのは難しいと思います。アンケートでは公共交通以外の移動手段が多かったですが、その通りだと思いました。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。北陸先端科学技術大学院大学の柴田委員、学生の希望や、留学生が多いという点も含めていかがでしょうか。

**【柴田委員】：**

学生の移動等につきましては分科会を設けていただいて、目下協議等も含めて検討させていただいている状況でございます。その進捗状況については別途事務局から報告があるかと思えます。また、学生にもアンケートを行っておりますので、その結果を踏まえて報告させていただきたく思います。

1 点、資料についてお聞きしたいのですが、本学もシャトルバスを運行しておりますが、能美市との協定で住民の方にも鶴来線を利用していただいております。アンケートの中で、本学のシャトルバスを利用している利用者が公共交通の利用者に含まれているのでしょうか。

**【事務局（長田）】：**

移動手段に関する設問の中で、JAIST のシャトルバスの利用については直接選択肢としては聞いていないのですが、毎年 150 人程度の市民の方が鶴来線のシャトルバスを利用しております。利用者の年代としては高齢者の方が最も多く、市民の利用者のうち通勤、通学で利用されている方も 1 割程度いらっしゃるかと把握しております。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。老人クラブ代表田中委員、いかがでしょうか。

**【田中委員】：**

老人クラブということになりますと、運転免許証をいつ返納するのかということに私自身も非常に關心をもっております。今年道路交通法が改正され、私も免許証の更新時には認知機能のテストに関しては心配しました。今年はどうにか資格は取れましたけれども、この辺りのことがこれから一番の心配事になります。実際に認知機能テストによって免許証が無効になった人というのがどのくらいいるのか、お聞きしたいと思います。

**【高山会長】：**

何か県内でそのような統計は取っていますでしょうか。或いは、能美市はどのような実態なのか。

**【村本委員】：**

具体的な数字は現在把握していないのですが、能美警察署管内におりますと、1 年で 100 人ほどの自主返納があります。そのうち高齢者講習等で認知機能に問題があると医師から認定された人数は分かりませんが、業務を遂行する中で多いと思うのが、やはり家族同伴で返納される方です。質問の主旨からは外れるかもしれませんが、このような答弁でお願い致します。

【高山会長】：

県警で統計を取っていただくことはできますでしょうか。

【村本委員】：

県警では統計を取っていると思いますが、私が現時点で把握していないということです。

【高山会長】：

分かりました。では何かの機会があれば報告いただければと思います。よろしくお願いします。  
それでは市 PTA 連合会副会長山岸委員、いかがでしょうか。

【山岸委員】：

私は小中学校の PTA なのですが、高校生の子を持つ親としての意見を申し上げます。送迎に負担を感じている方が多いということで、私もその一人なのですが、なかなか帰りの時間というのが皆さんバラバラで、そこに合わせてバスと連携するというのは難しいのかなと思います。皆さんそれぞれ能美根上駅だとか、色々な場所でのお迎えというのがありますので、移動における拠点の明確化などの改善点が挙げられておりますが、高校生の不満を改善するというのは難しいのかなと思います。

【高山会長】：

ありがとうございます。議会には色々と市民からの要望が寄せられているかと思いますが、いかがでしょう。

【田中委員】：

皆さんこんにちは。議会では私は総務の常任委員会におるのですが、その中で公共交通をどう充実させるかという課題に委員各自が取り組んでおります。先般 JR 能美根上駅から和佐谷まで連携バスに実際に乗車し、そして能美根上駅まで帰ってきました。その時は朝 8 時半からスタートしたのですが、たまたまかもしれませんけれども、バスが満車になるくらい人が乗っていて、議員各位驚いていたという状況だったのです。公共バスについては無くすわけにはいかないわけですから、アンケートを取って課題を見つけ、解決することによって発展させていくというやり方しかないのかなと私は思っておりますし、総務の常任委員会としてはもっともっと課題解決に向けて、バス乗車を体験しながら提案していきたいなと思っております。

もう一つは、何箇所か視察に行ったのですが、実際は能美市とほとんど変わらない状況で、予算はだいたい 9,000 万円ほど使い、利用者の利用料金としては 2,000 万円ほどで、全国的にもこのくらいの規模でありました。そういうことで、繰り返しになりますけれども、公共交通『のみバス』についてはさらなる充実のために今後検討していけばよいと考えております。

【高山会長】：

ありがとうございました。事業者の方、いかがでしょうか。どんどん運転手がいなくなるということなのですが、若い方は入ってきませんか。昔は北陸鉄道と言うと地域の優良企業で、そのバスの運転手と言えば高給取りというものだったので、最近はそうでもないのでしょうか。

**【茜委員】：**

昔は入るに入れないという状況だったと聞いておりますけれども、ご承知の通りバスの運転手は大型2種という特殊な免許が必要なのですが、なかなか大型2種免許取得者がいないという状況です。北鉄グループとしましては普通免許を持つ高校生を高卒で採用しております。大型2種は3年経たないと取得できませんので、21歳まで受付カウンターや営業の現場を経験させて、21歳になって会社負担で大型2種免許を取得するという採用方法で毎年4、5人、何とか確保している状況です。加賀白山バスは小さな会社ですので、どうしてもそのようなことはできませんので、中途採用という形で、いろんな手を使って、お金もかけながら採用活動を行っておりますが、なかなか人が集まらないのが正直なところで、入ってもすぐ辞めるという状況です。何とか今の人員で回しておるのですけれども、それもやはり時間外も限界があり、あまりやりすぎると労務問題になってきますので、その辺が非常に難しいところでございます。しかし、私共はどうしても市民の皆様には直結した足を優先的に運行しなければならないということで、何とか『のみバス』は運行したいということで努力しているところでございます。

先ほどのアンケートの中で、「運行時間の正確さ」と「乗務員の接遇、運転マナー」で高い評価をいただきまして、社長としてほっとしているところです。またこうした状況の中で、私共としてそれ以上に大事にしておりますのが「安全安心な運行」でございます。こういったアンケートではお客様にとっては「安全運行は当たり前」と思われるかもしれませんが、私共としましては一番大切にしているところでございます。そのためには、現在の『のみバス』を維持いたしますけれども、なかなか皆様のご意向を十分に取り入れるというのはお受けできない状況でございます。それもまたご検討頂ければと思います。当然お客様の目線のこうしたアンケートも大事ですけれども、乗務員の目線からも見ていただいて、何とか『のみバス』を維持していきたいと考えております。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。私が以前バス会社の方とお話をしていたのですが、安全運行というのは単にバスが他の車や二輪車や歩行者との事故だけではないのです。最近は車内事故が結構多い。不可抗力で急ブレーキを踏むと、その時に立っていた高齢者が転倒したりして、車内で怪我をするということが、車外の事故よりも多いのだと聞いて驚いたことがあります。そういう意味からすると、まだ能美市の場合はそれほど交通量が多くない道路を走っているから、そういう事故はそれほど多くないのかも知れませんが、そういうこともある、ということでした。

本日は代理ですけれど、山内代理、どうでしょう。何か資料を見られた感想でも結構です。

**【山内委員】：**

白山バスの茜社長がおっしゃったように、本当に運転手不足でございます。私共も小松市内で市内循環バスの運行を行っておりますけれども、今見直しを投げかけている状態です。本当に市民の皆様の方として役立ちたいのですけれども、かなり無理がありまして、本当に悩んでいるところでございます。色々な話を聞いて、いい方向に持っていければいいかなと思います。

**【高山会長】：**

ありがとうございます。あとは女性の委員の方々ですけれど、何かそれぞれの立場でご発言があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

特にないようですので、本日は市民アンケートの調査結果に基づいた今後の『のみバス』の再編の骨格、考え方をお諮りしたつもりです。特に改善意向と優先順位というものが9ページにあるかと思えます。8ページはコンセプト、9ページがアンケートに基づく改善の方向性を示した基本的な考え方となっております。これは3世代にわたって不満に思っていることを重視しようという考え方で、不満に思っている方をなるべく少なくして利用してもらえようという考え方です。私が最初に申し上げましたが、100%、市民全員の満足を得るということは無理な話なのです。もちろん今かけている1億円弱の予算を倍にすれば満足度は1.5倍くらいにはなるかと思えますが、それも行政の継続性から考えるとなかなか厳しいものがあります。私は色々なところの地域公共交通会議や改善計画委員会等で見えておりますが、能美市は非常に恵まれた地域だと思われまます。もちろん辰口方面は山間地はありますが、それでも平地が圧倒的に多いです、コンパクトな市だということ言えば、カバー率も非常に高いという、便利な場所かと思えます。唯一不満が出るのが、循環バスが2時間や3時間に1本しか回ってこないという点が市民にとっての不満の背景かと思えます。それをなるべく限られた資材、車両でうまく運行できるような改善案を今、事務局で検討しているということですので、この基本的な考え方についてご了承いただければ非常に幸いと言いますか、今後の具体的なダイヤ、ルートの見直しに非常に役に立つと思っております。この点に関して何かご意見はありますか。

**【東方委員】：**

先ほどアンケートの中の「利用したい交通手段」についてお聞きしたのですが、その意図として、今、循環バスは3地区で8コースあるわけですが、私自身、どこかの時点で有償のオンデマンド交通のようなものの導入も少し考える必要があるという気がしております。例えば、この8コースのうち1コースくらいを、一度試みに福祉有償のオンデマンドで運行してみるということも考えてみてもよいのではないかなという思いがありました。その中で、利用したい交通手段が思いつかないという人が6割もいたということで、どういうことなのだろうかと思い、先ほど質問したのです。

抜本的に見直しと書いてありますが、基本的に循環バスと連携バスを温存させた形で出てくるのか、或いはもう少し思い切った試みが出てくるのか、その辺を見ていきたいと思っております。

**【高山会長】：**

貴重なご意見、ありがとうございました。事務局いかがですか。

**【細川副会長】：**

今東方委員からお話がありました内容につきまして、実は今能美市では「丸ごとわがごと」推進事業というものを進めておまして、その中で福祉の分野での移送をどうするかということを検討しております。今はまだ具体的なことは申し上げられないのですが、社会福祉法人から出た益金を福祉の分野における移送に対して活用してはどうかというご意見もあります。そういうものも活用させて頂きながら、JAISTの山本先生にも入って頂いて、どういう形でやっていったらいいのだろうかということ具体的に検討しているところでございます。そういうところとも連携しながら能美市全体でどういう形にしていけばよりベターな形になるのかということもまた検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

**【高山会長】：**

現在能美市に福祉有償運送はあるのですよね。今の副市長のお話は、それとは別のものということですか。

【事務局（長田）】：

別のものです。

【高山会長】：

分かりました。

他にご意見はありますか。それでは再編、見直しの骨格については皆さんご了承いただいたということにしたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは最後になりますけれど、今後の予定について事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局（中出）】：

－事務局より今後の予定について説明－

【高山会長】：

この『のみバス』再編に向けた今後のスケジュールについては今事務局よりお話がありましたけれど、19日に意見交換会あり、ワークショップ的、具体的にルート、ダイヤをお示しして、要望或いはご意見を集めたいと考えております。委員の方にもご参加いただくと聞いておりますので、是非その場で忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。よろしく申し上げます。

何か最後に言っておきたいということはありませんでしょうか。2月の初めにはパブリックコメントを行いますので、代表の方にはその内容を見ていただいて、団体としての意見や個人的な意見を出していただければと思います。事務局も意見が何もないと寂しいので、意見がたくさん出てくることを期待してパブリックコメントを実施したいと思います。

それでは予定より時間は早いですが、特にご意見ないようですので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

【事務局（中出）】：

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。本日いただいた感想、意見を参考に、今後も進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

以上で第28回能美市地域公共交通会議を閉じさせていただきます。お疲れ様でした。

以上